

## 発行者情報

- 【表紙】
- 【公表書類】 発行者情報
- 【公表日】 2021年12月27日
- 【発行者の名称】 筑波精工株式会社  
(TSUKUBASEIKO CO., Ltd.)
- 【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 傳 寶業
- 【本店の所在の場所】 栃木県河内郡上三川町大字上蒲生字願成寺2168-10
- 【電話番号】 0285-55-0081
- 【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 松坂 一生
- 【担当J-Adviserの名称】 株式会社アイ・アール ジャパン
- 【担当J-Adviserの代表者の役職氏名】 代表取締役社長・CEO 寺下 史郎
- 【担当J-Adviserの本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関3-2-5霞が関ビルディング 26階
- 【担当J-Adviserの財務状況が公表されるウェブサイトのアドレス】 [https://www.irjapan.jp/ir\\_info/library/financial\\_results.html](https://www.irjapan.jp/ir_info/library/financial_results.html)
- 【電話番号】 03-3519-6750
- 【取引所金融商品市場等に関する事項】 東京証券取引所TOKYO PRO Market  
なお、振替機関の名称及び住所は下記のとおりです。  
名称 株式会社証券保管振替機構  
住所 東京都中央区日本橋兜町7番1号
- 【公表されるホームページのアドレス】 筑波精工株式会社  
<https://tsukubaseiko.co.jp/>  
株式会社東京証券取引所  
<https://www.jpx.co.jp/>
- 【投資者に対する注意事項】
- 1 TOKYO PRO Marketは、特定投資家等を対象とした市場であり、その上場会社は、高い投資リスクを含んでいる場合があります。投資者は、TOKYO PRO Marketの上場会社に適用される上場適格性要件及び適時開示基準並びに市場価格の変動に関するリスクに留意し、自らの責任で投資を行う必要があります。また、投資者は、発行者情報により公表された情報を慎重に検討した上で投資判断を行う必要があります。特に、第一部 第3 4【事業等のリスク】において公表された情報を慎重に検討する必要があります。
  - 2 発行者情報を公表した発行者のその公表の時における役員（金融商品取引法（以下「法」という。）第21条第1項第1号に規定する役員（取締役、会計参与、監査役若しくは執行役又はこれらに準ずる者）をいう。）は、発行者情報のうちに重要な事項について虚偽の情報があり、又は公表すべき重要な事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けていたときは、法第27条の34において準用する法第22条の規定に基づき、当該有価証券を取得した者に対し、情報が虚偽であり又は欠けていることにより生じた損害を賠償する責任を負います。ただし、当該有価証券を取得した者がその取得の申込みの際に、情報が虚偽であり、又は欠けていることを知っていたときは、この限りではありません。また、当該役員は、情報が虚偽であり又は欠けていることを知らず、かつ、相当な注意を用いたにもかかわらず知ることができなかったことを証明したときは、上記賠償責任を負いません。
  - 3 TOKYO PRO Marketにおける取引所規則の枠組みは、基本的な部分において日本の一般的な取引所金融商品市場に適用される取引所規則の枠組みと異なっています。すなわち、TOKYO PRO Marketにおいて

は、J-Adviserが重要な役割を担います。TOKYO PRO Marketの上場会社は、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例（以下「特例」という。）に従って、各上場会社のために行動するJ-Adviserを選任する必要があります。J-Adviserの役割には、上場適格性要件に関する助言及び指導、並びに上場申請手続のマネジメントが含まれます。これらの点について、投資者は、東京証券取引所のホームページ等に掲げられるTOKYO PRO Marketに係る諸規則に留意する必要があります。

- 4 東京証券取引所は、発行者情報の内容（発行者情報に虚偽の情報があるか否か、又は公表すべき事項若しくは誤解を生じさせないために必要な重要な事実に関する情報が欠けているか否かという点を含みますが、これらに限られません。）について、何らの表明又は保証等をしておらず、前記賠償責任その他の一切の責任を負いません。

## 第一部【企業情報】

### 第1【本国における法制等の概要】

該当事項はありません。

### 第2【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

| 回 次                               | 第 35 期 (中間)                           | 第 36 期 (中間)                           | 第 37 期 (中間)                           | 第 35 期                                | 第 36 期                                |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 会計期間                              | 自 2019 年 4 月 1 日<br>至 2019 年 9 月 30 日 | 自 2020 年 4 月 1 日<br>至 2020 年 9 月 30 日 | 自 2021 年 4 月 1 日<br>至 2021 年 9 月 30 日 | 自 2019 年 4 月 1 日<br>至 2020 年 3 月 31 日 | 自 2020 年 4 月 1 日<br>至 2021 年 3 月 31 日 |
| 売上高 (千円)                          | 91,118                                | 91,998                                | 104,326                               | 168,132                               | 195,130                               |
| 経常損失(△) (千円)                      | △ 96,468                              | △ 51,614                              | △ 38,048                              | △ 189,260                             | △ 86,447                              |
| 中間 (当期) 純損失(△) (千円)               | △ 103,187                             | △ 72,561                              | △ 45,370                              | △ 380,462                             | △ 108,969                             |
| 持分法を適用した場合の<br>投資利益 (千円)          | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     |
| 資本金 (千円)                          | 907,300                               | 907,300                               | 907,300                               | 907,300                               | 907,300                               |
| 発行済株式総数 (株)                       | 3,806,000                             | 3,806,000                             | 3,806,000                             | 3,806,000                             | 3,806,000                             |
| 純資産額 (千円)                         | 817,124                               | 467,287                               | 385,509                               | 539,849                               | 430,879                               |
| 総資産額 (千円)                         | 978,529                               | 598,020                               | 597,390                               | 654,695                               | 632,991                               |
| 1 株当たり純資産額 (円)                    | 219.30                                | 125.41                                | 103.46                                | 144.89                                | 115.64                                |
| 1 株当たり配当額<br>(1 株当たり中間配当額) (円)    | -<br>(-)                              | -<br>(-)                              | -<br>(-)                              | -<br>(-)                              | -<br>(-)                              |
| 1 株当たり中間 (当期)<br>純損失(△) (円)       | △ 27.69                               | △ 19.47                               | △ 12.18                               | △ 102.11                              | △ 29.25                               |
| 潜在株式調整後 1 株当たり<br>中間 (当期) 純利益 (円) | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     |
| 自己資本比率 (%)                        | 83.51                                 | 78.14                                 | 64.53                                 | 82.46                                 | 68.07                                 |
| 自己資本利益率 (%)                       | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     |
| 株価収益率 (倍)                         | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     |
| 配当性向 (%)                          | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     | -                                     |
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)         | △ 47,142                              | △ 22,769                              | △ 36,908                              | △ 156,066                             | △ 78,809                              |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)         | △ 128,873                             | △ 10,691                              | △ 8,068                               | △ 224,192                             | △ 12,454                              |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)         | -                                     | 26,530                                | △ 3,593                               | △ 3,409                               | 102,999                               |
| 現金及び現金同等物の中間<br>期末 (期末) 残高 (千円)   | 687,800                               | 472,492                               | 442,228                               | 480,147                               | 491,157                               |
| 従業員数 (人)                          | 18                                    | 18                                    | 20                                    | 18                                    | 19                                    |
| [外、平均臨時雇用者数]                      | [-]                                   | [-]                                   | [-]                                   | [-]                                   | [-]                                   |

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、中間連結会計期間等にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当中間会計期間の期首から適用しており、当中間会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。
4. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
5. 潜在株式調整後 1 株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在するものの 1 株当たり中間 (当期) 純損失であるため記載しておりません。
6. 自己資本利益率については、中間 (当期) 純損失であるため記載しておりません。
7. 株価収益率については、中間(当期)純損失であるため記載しておりません。

8. 1株当たり配当額及び配当性向については、配当を行っていないため記載しておりません。
9. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、期中の平均人員を〔 〕外数で記載しております。
10. 特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第128条第3項の規定に基づき、第35期及び第36期の財務諸表についてはあかり監査法人の監査、第35期中間会計期間、第36期中間会計期間及び第37期中間会計期間の中間財務諸表についてはあかり監査法人の中間監査を受けております。

## 2【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 3【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 提出会社の状況

2021年9月30日現在

| 従業員数（人） | 平均年齢（歳） | 平均勤続年数（年） | 平均年間給与（千円） |
|---------|---------|-----------|------------|
| 20 [-]  | 43.2    | 5.3       | 4,415      |

（注） 1．従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、最近1年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。

2．平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3．当社は、静電界を用いた吸着システム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

### 第3【事業の状況】

#### 1【業績等の概要】

文中の将来に関する事項は、当中間発行者情報提出日現在において当社が判断したものであります。

なお、当中間会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しておりますが、これに伴い、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金及び当中間財務諸表に与える影響はありません。

詳細は、「第6 経理の状況 1 中間財務諸表等（1）中間財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。また、【業績等の概要】の各項に記載している金額には消費税等は含まれておりません。

#### （1）業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、令和2年をボトムとして、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の進捗を背景に、基調として持ち直しの兆しが見られてはおりますが、緊急事態宣言やまん延防止重点措置などの対策が繰り返し発出され、依然楽観を許さない状況が継続しています。世界経済におきましても、先進国を中心として新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の拡大による経済活動への規制緩和が進み、下げ止まりの傾向が観測されます。

しかし、足元では中国国内で進められる不動産バブル潰しや、石炭などの化石燃料の規制と電力不足並びにその結果とみられる中国やアジア諸国からの様々な部品調達の遅延・停止など、飛ぶ鳥を落とす勢いといわれた中国経済に大きな陰りを落としています。他方、いち早く経済活動の回復を示したアメリカでは、化石燃料の高騰他によるインフレ傾向が顕著となり、これに対するFRBによる年内のテーパリングとその先の利上げの観測が各国中央銀行の政策や各国の金融市場に少なからず影響を与え始めており、予断を許さない状況となっております。

半導体業界におきましては、中国政府が「台湾統一は歴史的任務である」と公言し、台湾を中心とした東シナ海での中国の軍事プレゼンスが強化される状況に対し、各国が地政学的リスクを強く意識し、長い間裏方と信じられて来た半導体製造受託企業である台湾のTSMCなどのファンドリが俄かに脚光を浴び、アメリカや日本がTSMCの半導体製造工場を積極的に国内に誘致するなど、先進諸国における半導体を軸とした戦略的な取り組みが一気に加速しました。

このような環境の中、当社は新型コロナウイルスの感染防止対策を更に強化するとともに、経費削減や投資計画・採用計画の見直しを図りつつ、急激な受注増加がみられた場合にもフレキシブルな増産が可能となるよう、工場レイアウトの工夫とタクトタイムの短縮を進め、あらゆる角度から利益創出に向けた対策を実行いたしました。

この結果、当中間会計期間の売上高は104百万円（前年同期比13.4%増）、営業損失は37百万円（前年同期は55百万円の営業損失）、経常損失は38百万円（前年同期は51百万円の経常損失）、中間純損失は45百万円（前年同期は72百万円の中間純損失）となりました。

これらの状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していますが、「第3【事業の状況】4【事業等のリスク】（1）継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況の概要及び当該重要事象等を解消、改善するための対応策」に記載のとおり、当該重要事象等を解消、改善するための対応策を講じることにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、当社は静電界を用いた吸着システム事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

#### （2）キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ48百万円減少し、442百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の減少は36百万円（前年同期は22百万円の減少）となりました。営業活動による資金の減少の主な要因として税引前中間純損失が44百万円、売上債権の増加14百万円があった一方で、未収還付消費税等の減少6百万円、仕入債務の増加5百万円及び減損損失6百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は8百万円（前年同期は10百万円の減少）となりました。投資活動による資金の減少の主な要因は、有形固定資産の取得による支出7百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は3百万円（前年同期は26百万円の増加）となりました。財務活動による資金の減少の主な要因は、リース債務の返済による支出が3百万円あったことによるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当中間会計期間の生産実績は、次のとおりとなります。なお、当社は静電界を用いた吸着システム事業の単一セグメントであります。

| セグメントの名称        | 生産高（千円） | 前年同期比（％） |
|-----------------|---------|----------|
| 静電界を用いた吸着システム事業 | 64,962  | 103.2    |

(注) 1. 金額は製造原価によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注実績

当中間会計期間の受注実績は、次のとおりとなります。なお、当社は静電界を用いた吸着システム事業の単一セグメントであります。

| セグメントの名称        | 受注高（千円） | 前年同期比（％） |
|-----------------|---------|----------|
| 静電界を用いた吸着システム事業 | 129,666 | 157.2    |

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当中間会計期間の販売実績は、次のとおりとなります。なお、当社は静電界を用いた吸着システム事業の単一セグメントであります。

| セグメントの名称        | 売上高（千円） | 前年同期比（％） |
|-----------------|---------|----------|
| 静電界を用いた吸着システム事業 | 104,326 | 113.4    |

(注) 1. 当社は単一セグメントであるため、セグメント別の記載に代えて商品及び製品別に記載しています。

当中間会計期間の商品及び製品別販売実績は次のとおりであります。

| 商品及び製品の名称 | 販売高（千円） | 前年同期比（％） |
|-----------|---------|----------|
| サポーター     | 25,748  | 304.7    |
| ステージ      | 28,184  | 46.0     |
| その他       | 50,394  | 226.6    |
| 合 計       | 104,326 | 113.4    |

2. 最近2中間会計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

| 相手先           | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日) |        | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日) |        |
|---------------|------------------------------------------|--------|------------------------------------------|--------|
|               | 金額 (千円)                                  | 割合 (%) | 金額 (千円)                                  | 割合 (%) |
| 盟立自動化股份有限公司   | 48,252                                   | 52.5   | -                                        | -      |
| 深圳市瑞尔泰思科技有限公司 | 12,652                                   | 13.8   | 27,784                                   | 26.6   |
| イーグローバレッジ株式会社 | 5,705                                    | 6.2    | 19,688                                   | 18.9   |

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

前事業年度の発行者情報公表後、本中間発行者情報公表日までに重要な変更はありません。

### 4 【事業等のリスク】

当中間会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の発行者情報に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、文中の将来に関する事項は、本中間発行者情報公表日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況の概要及び当該重要事象等を解消、改善するための対応策

当社は、当中間会計期間において、営業損失 37 百万円、経常損失 38 百万円、中間純損失 45 百万円を計上しており、また、次項の表に示した通り、営業利益においては過去 2 期連続、経常利益、当期純利益、営業キャッシュ・フローについては過去 3 期連続して継続的なマイナスが発生しております。

| 単 位<br>(百万円)    | 2019 年 3 月期<br>期末 | 2020 年 3 月期<br>期末 | 2021 年 3 月期<br>期末 | 2022 年 3 月期<br>中間期 |
|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 営業利益又は営業損失 (△)  | 1                 | △188              | △90               | △37                |
| 経常損失 (△)        | △56               | △189              | △86               | △38                |
| 当期 (中間) 純損失 (△) | △62               | △380              | △108              | △45                |
| 営業キャッシュ・フロー     | △128              | △156              | △78               | △36                |

以上の状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。なお当社は、以下に記載の諸施策の実施により業績を改善し、当該重要事象等が早期に解消されるよう取り組んでまいります。具体的な対応策は次の通りであります。

1. サポーターユーザーの生産現場の習熟と、工程の安定化のためのテストを繰り返し実行している大手ファンドリでの当社との協同活動の結果が「エアブロー方式での張り合わせ機構の開発成功」に結び付くなど、顧客と向き合った開発体制の推進が成果を生み出す好循環となっております。当社としては、当該顧客による追加大口発注を含め、今後順次大量生産に移行することを見据え、生産設備の高度化や社内生産現場の従業員の教育訓練等を進めてまいります。
2. サポーターを現場に投入する大口顧客が、同一顧客の別ラインでの導入試験を誘発し、社内での評判が評判を生む好循環がみられます。大手ファンドリは複数レイヤーの子会社による製造体制を執っていることから、それまで製造困難とみなされてきた薄化された半導体製造に成功すれば、傘下の複数の子会社が競うように採用を進める可能性が高く、本格的な売上拡大につながる時期に近いものと想定しております。
3. 全社経費の見直しを実施し、採用計画の修正による採用費・人件費の圧縮や、外部ベンダーや業務委託先の契約更改・契約終了等による経費圧縮を積極的に推進することで、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。
4. 財務状態の改善・手元流動性による経営の自由度確保を目指し、銀行との資金調達の交渉を進め、大口案件獲得の際にはプロジェクトファイナンスの手法で部材仕入額相当の借入を実行するべく交渉を継続しております。当社は、メインバンクを中心に各金融機関と緊密な関係を維持できていることから、継続的な支援が得られるものと考えております。

当社といたしましては、以上のような施策を行うことによる収支の好転に加え、手元資金を十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しています。

## (2) 担当J-Adviser との契約について

当社は、株式会社東京証券取引所が運営を行っております証券市場TOKYO PRO Marketに2018年11月28日に上場いたしました。当該市場の上場企業は、特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第102条の定めにより、株式会社東京証券取引所より認定を受けたいずれかの担当J-Adviserと、株式上場の適格性審査及び株式上場後の上場適格性を維持するための指導、助言、審査等の各種業務を委託する契約（以下「J-Adviser契約」という。）を締結する義務があります。本中間発行者情報の公表時点において、当社がJ-Adviser契約を締結しているのは株式会社アイ・アール ジャパン（以下「同社」という。）であり、同社とのJ-Adviser契約において定める義務の履行が求められております。当該義務の履行を怠り、又は、その他本契約違反を犯した場合、その相手方は、相当の期間（特段の事情のない限り1か月前とする。）を定めてその違反の是正又は義務の履行を書面で催告し、その催告期間内にその違反の是正又は義務の履行がなされなかったときは本契約を解除することができる旨を定めております。また上記に関わらず、当社及び同社は合意又は相手方に対する1か月前以上の書面による通知によって本契約を解除することができる旨の定めがあります。当社が同社より上記の解除にかかる催告期間中において、下記の義務の履行又は違反の是正が果たせない場合、又は同社に代わる担当J-Adviserを確保できない場合は、当社普通株式のTOKYO PRO Market上場廃止につながる可能性があります。

また、当社において下記の事象が発生した場合には、同社からの催告なしでJ-Adviser契約を解除することができるものと定められております。

なお、本中間発行者情報の公表日現在において、当該契約の解除条項に該当する事象は生じておりません。

### ① 債務超過

当社が対象となる事業年度の末日に債務超過の状態である場合（上場後3年間に於いて債務超過の状態となった場合を除く。）において、1年以内（対象となる事業年度の末日の翌日から起算して1年を経過する日（当該1年を経過する日が当社の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日の後最初に到来する事業年度の末日）までの期間をいう。以下、本号において同じ。また「2年以内」も同様。）に債務超過の状態でなくならなかったとき。但し、当社が法律の規定に基づく再生手続若しくは更生手続、産業競争力強化法（以下「産競法」という。）第2条第16項に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生（当該手続が実施された場合における産競法第52条に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。）又は私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行うことにより、当該1年を経過した日から起算して1年以内に債務超過の状態でなくなることを計画している場合（同社が適当と認める場合に限る。）には、2年以内に債務超過の状態でなくならなかったとき。

なお、同社が適当と認める場合に適合するかどうかの審査は、当社が対象となる事業年度に係る決算（上場会社が連結財務諸表を作成すべき会社である場合には連結会計年度、連結財務諸表を作成すべき会社でない場合には事業年度に係る決算とする。）の内容を開示するまでの間において、再建計画（本号但書きに定める1年以内に債務超過の状態でなくなるための再建計画を含む。）を公表している場合を対象とし、当社が提出する当該再建計画並びに次の（イ）及び（ロ）に定める書面に基づき行うものとする。

（イ）次のaからcまでの場合の区分に従い、当該aからcまでに規定する書面

- a. 法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を行う場合  
当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得ているものであることを証する書面
- b. 産競法第2条第16項に規定する特定認証紛争解決手続に基づく事業再生（当該手続が実施された場合における産競法第52条に規定する特例の適用を受ける特定調停手続による場合も含む。）を行う場合  
当該再建計画が、当該手続にしたがって成立したものであることを証する書面
- c. 私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行う場合

当該再建計画が、当該ガイドラインにしたがって成立したものであることについて債権者が記載した書面

- (ロ) 本号但書きに定める 1 年以内に債務超過の状態でなくなるための計画の前提となった重要な事項等が、有価証券上場規程第402条第 1 号 a j に規定する公認会計士等により検討されたものであることについて当該公認会計士等が記載した書面

## ② 銀行取引の停止

当社が発行した手形等が不渡りとなり銀行取引が停止された場合又は停止されることが確実となった場合（当社が発行した手形等が不渡りとなり、当社から同社に対し銀行取引停止が確実となった旨の報告を書面で受けた場合）

## ③ 破産手続、再生手続又は更生手続

当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続若しくは更生手続を必要とするに至った場合（当社が、法律に規定する破産手続、再生手続又は更生手続の原因があることにより、破産手続、再生手続又は更生手続を必要と判断した場合）又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次の a から c までに掲げる場合その他当社が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合に準ずる状態になったと同社が認めた場合をいうものとし、当該 a から c までに掲げる場合には当該 a から c までに定める日に本号前段に該当するものとして取り扱う。

- a. 当社が債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあるときなどで再建を目的としない法律に基づかない整理を行う場合  
当社から当該整理を行うことについての書面による報告を受けた日
- b. 当社が、債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあることなどにより事業活動の継続について困難である旨又は断念する旨を取締役会等において決議又は決定した場合であって、事業の全部若しくは大部分の譲渡又は解散について株主総会又は普通出資者総会に付議することを取締役会の決議を行った場合  
当社から当該事業の譲渡又は解散に関する取締役会の決議についての書面による報告を受けた日（事業の大部分の譲渡の場合には、当該事業の譲渡が事業の大部分の譲渡であると同社が認めた日）
- c. 当社が、財政状態の改善のために、債権者による債務の免除又は第三者による債務の引受若しくは弁済に関する合意を当該債権者又は第三者と行った場合（当該債務の免除の額又は債務の引受若しくは弁済の額が直前事業年度の末日における債務の総額の 100 分の 10 に相当する額以上である場合に限る。）  
当社から当該合意を行ったことについての書面による報告を受けた日

- ④ 前号に該当することとなった場合においても、当社が次の（イ）から（ハ）までに該当する再建計画の開示を行った場合には、原則として本契約の解除は行わないものとする。

（イ） 次の a 又は b に定める場合に従い、当該 a 又は b に定める事項に該当すること。

- a. 当社が法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合  
当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得られる見込みがあるものであること。
- b. 当社が前号 c に規定する合意を行った場合  
当該再建計画が、前号 c に規定する債権者又は第三者の合意を得ているものであること。

（ロ） 当該再建計画に次の a 及び b に掲げる事項が記載されていること。

- a. TOKYO PRO Market に上場する有価証券の全部を消却するものでないこと。
- b. 前（イ）の a に規定する見込みがある旨及びその理由又は同 b に規定する合意がなされていること及びそれを証する内容

（ハ） 当該再建計画に上場廃止の原因となる事項が記載されているなど公益又は投資者保護の観点から適当でないと認められるものでないこと。

## ⑤ 事業活動の停止

当社が事業活動を停止した場合（当社及びその連結子会社の事業活動が停止されたと同社が認めた場合（天災地変等により一時的に事業活動が停止されたと同社が認めた場合を除く。））又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次の（イ）から（ハ）までに掲げる場合そ

の他当社が事業活動を停止した場合に準ずる状態になった場合と同社が認めた場合をいうものとし、当該（イ）から（ハ）までに掲げる場合には当該（イ）から（ハ）までに掲げる日に同号に該当するものとして取り扱う。

（イ）当社が、合併により解散する場合のうち、合併に際して当社の株主に対してその株券等に代わる財産の全部又は一部として次の a 又は b に該当する株券等を交付する場合は、原則として、合併がその効力を生ずる日の 3 日前（休業日を除外する。）の日

a. TOKYO PRO Market の上場株券等

b. 特例第 132 条の規定の適用を受け、速やかに TOKYO PRO Market に上場される見込みのある株券等

（ロ）当社が、前（イ）に規定する合併以外の合併により解散する場合は、当社から当該合併に関する株主総会（普通出資者総会を含む。）の決議についての書面による報告を受けた日（当該合併について株主総会の決議による承認を要しない場合には、取締役会の決議（委員会設置会社にあつては、執行役の決定を含む。）についての書面による報告を受けた日）

（ハ）当社が、前（イ）及び前（ロ）に規定する事由以外の事由により解散する場合（本号本文なお書きの適用を受ける場合を除く。）は、当社から当該解散の原因となる事由が発生した旨の書面による報告を受けた日

#### ⑥ 不適当な合併等

当社が非上場会社の吸収合併又はこれに類するものとして特例施行規則で定める行為（i 非上場会社を完全子会社とする株式交換、ii 会社分割による非上場会社からの事業の承継、iii 非上場会社からの事業の譲受け、iv 会社分割による他の者への事業の承継、v 他の者への事業の譲渡、vi 非上場会社との業務上の提携、vii 第三者割当による株式若しくは優先出資の割当て、viii その他非上場会社の吸収合併又は i から vii までと同等の効果をもたらすと認められる行為をいい、以下、本号において「吸収合併等」という。）を行った場合に、当社が実質的な存続会社でないと同社が認めた場合

#### ⑦ 支配株主との取引の健全性の毀損

第三者割当により当社の支配株主（当社の親会社又は当社の議決権の過半数を直接若しくは間接に保有する者）が異動した場合（当該割当により交付された募集株式等の転換又は行使により支配株主が異動する見込みがある場合を含む）において、支配株主との取引に関する健全性が著しく毀損されていると同社が認めるとき

#### ⑧ 発行者情報等の提出遅延

当社が提出の義務を有する特定証券情報、発行者情報又は有価証券報告書等につき、特例及び法令に定める期間内に提出しなかった場合で、同社がその遅延理由が適切でないと判断した場合

#### ⑨ 虚偽記載又は不適正意見等

次の（イ）又は（ロ）に該当する場合

（イ）当社が開示書類等に虚偽記載を行い、かつ、市場の秩序を維持することが困難であることが明らかであると同社が認める場合

（ロ）当社の財務諸表等に添付される監査報告書等において、公認会計士等によって、監査報告書については「不適正意見」又は「意見の表明をしない」旨（天災地変等、上場会社の責めに帰すべからざる事由によるものである場合を除く。）が記載され、かつ、市場の秩序を維持することが困難であることが明らかであると同社が認める場合

#### ⑩ 内部管理体制等の不備

内部管理体制等について不備があり、同社が改善を促したにもかかわらず改善を怠り、改善の見込みがないと同社が認めた場合

#### ⑪ 法令違反及び上場契約違反等

当社が重大な法令若しくは上場契約の違反又は特例に関する重大な違反を行った場合

#### ⑫ 株式事務代行機関への委託

当社が株式事務を特例で定める株式事務代行機関に委託しないこととなった場合又は委託しないこととなることが確実となった場合

#### ⑬ 株式の譲渡制限

当社がTOKYO PRO Marketに上場する株式の譲渡につき制限を行うこととした場合

⑭ 完全子会社化

当社が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となる場合

⑮ 指定振替機関における取扱い

当社が発行する株券が指定振替機関の振替業における取扱いの対象とならないこととなった場合

⑯ 株主の権利の不当な制限

当社が次の a から g までのいずれかに掲げる行為を行っている場合において、株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合その他株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると同社が認めた場合

- a. 買収者以外の株主であることを行使又は割当ての条件とする新株予約権を株主割当て等の形で発行する買収防衛策（以下「ライツプラン」という。）のうち、行使価額が株式の時価より著しく低い新株予約権を導入時点の株主等に対し割り当てておくものの導入（実質的に買収防衛策の発動の時点の株主に割り当てるために、導入時点において暫定的に特定の者に割り当てておく場合を除く。）
- b. ライツプランのうち、株主総会で取締役の過半数の交代が決議された場合においても、なお廃止又は不発動とすることができないものの導入
- c. 拒否権付種類株式のうち、取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされたものの発行に係る決議又は決定（当社が持株会社である場合であり、当社の主要な事業を行っている子会社が拒否権付種類株式又は取締役選任権付種類株式を当社以外の者を割当先として発行する場合において、当該種類株式の発行が当社に対する買収の実現を困難にする方策であると同社が認めるときは、当社が重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされた拒否権付種類株式を発行するものとして取り扱う。）
- d. TOKYO PRO Market に上場している株券について、株主総会において議決権を行使することができる事項のうち取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について制限のある種類の株式への変更に係る決議又は決定。但し、株主及び投資者の利益を侵害するおそれが少ないと同社が認める場合は、この限りでない
- e. TOKYO PRO Market に上場している株券より議決権の多い株式（取締役の選解任その他の重要な事項について株主総会において一個の議決権を行使することができる数の株式に係る剰余金の配当請求権その他の経済的利益を受ける権利の価額等が TOKYO PRO Market に上場している株券より低い株式をいう。）の発行に係る決議又は決定（株主及び投資者の利益を侵害するおそれが大きいと同社が認めるものに限る。）
- f. 議決権の比率が 300%を超える第三者割当に係る決議又は決定。但し、株主及び投資者の利益を侵害するおそれが少ないと同社が認める場合は、この限りでない
- g. 株主総会における議決権を失う株主が生じることとなる株式併合その他同等の効果をもたらす行為に係る決議又は決定（株主及び投資者の利益を侵害するおそれが大きいと同社が認めるものに限る。）

⑰ 全部取得

当社が TOKYO PRO Market に上場している当社株式の全部を取得する場合

⑱ 株式等売渡請求による取得

特別支配株主が TOKYO PRO Market に上場している当社株式の全部を取得する場合

⑲ 反社会的勢力の関与

当社が反社会的勢力の関与を受けている事実が判明した場合において、その実態が TOKYO PRO Market の市場に対する株主及び投資者の信頼を著しく毀損したと同社が認めるとき

⑳ その他

前各号のほか、公益又は投資者保護のため、同社又は東京証券取引所が上場廃止を適当と認めた場合

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社の静電チャックの技術はその基礎技術の部分で完成しており、現状では様々な顧客の条件に適合したアプリケーション対応が求められております。一例をあげますと、大手ファンドリでは半導体薄板のハンドリングを完全機械化することで製造効率を極大化しておりますが、当社製品はこのラインに配置されることから、当社製品が顧客ライン上に完全自動で稼働することが製品採用のポイントであります。このため、当社では案件別アプリケーション開発活動を積極的に進めております。また、来たるべきサポーターの大量生産への備えとして、サポーターの性能改善（吸着力アップと表面特性高度化・均一化）ならびに生産設備の高度化を進めております。この結果、当中間会計期間の研究開発費は1,832千円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、本中間発行情報公表日現在において当社が判断したものであります。

なお、当中間会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しておりますが、これに伴い、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金及び当中間財務諸表に与える影響はありません。

詳細は、「第6 経理の状況 1 中間財務諸表等 （1）中間財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。また、【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】の各項に記載している金額には消費税等は含まれておりません。

### （1）重要な会計方針及び見積り

当社の中間財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この中間財務諸表の作成にあたりましては、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者はこれらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、新型コロナウイルス感染症により世界経済は大きな打撃を受け、その後、各国政府の感染拡大防止対策規制が徐々に緩和されたことで生産活動は再開へと向かっておりますが、世界経済の回復にはなお時間を要するものと思われます。このため、特に当社の大口受注先としている海外市場での当社の営業・受注活動の遅延が見込まれます。このような状況の中、前事業年度末においては、「2022年3月期末までは当該影響が継続するものの、その後は徐々に回復が進んでいくもの」と仮定しておりましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、「2023年3月期下半期以降はコロナウイルスワクチン接種が世界的に拡大されることで感染拡大傾向が薄れ、移動制限の緩和、マスク着用の制限緩和など、企業活動を制限する各種規制の緩和が進む」と仮定を変更し、固定資産の減損判定、繰延税金資産の回収可能性及び継続企業の前提に係る将来キャッシュ・フローの見積りを行っております。

### （2）財政状態の分析

#### （流動資産）

当中間会計期間末における流動資産の残高は562百万円となり、前事業年度末と比較して35百万円減少いたしました。これの主な変動要因は、電子記録債権が2百万円、売掛金が13百万円及び仕掛品が2百万円増加した一方で、現金及び預金が48百万円、未収還付消費税等が6百万円減少したことによるものであります。

#### （固定資産）

当中間会計期間末における固定資産の残高は34百万円となり、前事業年度末と比較してほぼ同額となりました。これの主な変動要因は、建物附属設備が2百万円、機械装置が2百万円、工具、器具及び備品が1百万円及び建設仮勘定1百万円が増加した一方で、減損損失を6百万円計上したことによるものであります。

#### （流動負債）

当中間会計期間末における流動負債の残高は62百万円となり、前事業年度末と比較して13百万円増加いたしました。これの主な変動要因は、買掛金が1百万円、電子記録債務が3百万円、未払金が2百万円、未払法人税等が1百万円及び前受金が3百万円増加したことによるものであります。

#### （固定負債）

当中間会計期間末における固定負債の残高は149百万円となり、前事業年度末と比較して3百万円減少いたしました。これの変動要因は、リース債務が3百万円減少したことによるものであります。

#### （純資産）

当中間会計期間末における純資産の残高は385百万円となり、前事業年度末と比較して45百万円減少いたしました。これの変動要因は、中間純損失により利益剰余金が45百万円減少したことによるものであります。

### （3）経営成績の分析

「第3【事業の状況】 1【業績等の概要】（1）業績」に記載のとおりです。

### （4）キャッシュ・フローの分析

「第3【事業の状況】 1【業績等の概要】（2）キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

#### 第4【設備の状況】

##### 1【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

##### 2【設備の新設、除却等の計画】

###### (1) 重要な設備の新設等

| 事業所名<br>(所在地)       | 設備の内容                  | 投資予定金額     |              | 資金<br>調達<br>方法 | 着手及び完了予定年月 |          | 完成後の増加<br>能力等 |
|---------------------|------------------------|------------|--------------|----------------|------------|----------|---------------|
|                     |                        | 総額<br>(千円) | 既支払額<br>(千円) |                | 着手         | 完了       |               |
| 本社<br>(栃木県<br>上三川町) | ローダー/ア<br>ンローダー<br>自動機 | 37,800     | 11,485       | 自己<br>資金       | 2020年2月    | 2021年10月 | 営業拠点設備        |
|                     | 量産時クリ<br>ーンブース<br>他    | 10,000     | -            | 自己<br>資金       | 2021年4月    | 2022年3月  | 生産検査設備<br>ほか  |

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

#### 第5【発行者の状況】

##### 1【株式等の状況】

###### (1) 【株式の総数等】

| 記名・無記名の<br>別、額面・無額<br>面の別及び種類 | 発行可能<br>株式総数<br>(株) | 未発行<br>株式数<br>(株) | 中間会計期間末<br>現在発行数<br>(株)<br>(2021年<br>9月30日) | 公表日現在<br>発行数<br>(株)<br>(2021年<br>12月27日) | 上場金融商品<br>取引所名又は<br>登録認可金融商<br>品取引業<br>協会名 | 内容                                                                        |
|-------------------------------|---------------------|-------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 普通株式                          | 12,000,000          | 8,194,000         | 3,806,000                                   | 3,806,000                                | 東京証券取引所<br>(TOKYO PRO Market)              | 権利内容に何<br>ら限定のない<br>当社における<br>標準となる株<br>式であり、単<br>元株式数は<br>100株であり<br>ます。 |
| 計                             | 12,000,000          | 8,194,000         | 3,806,000                                   | 3,806,000                                | -                                          | -                                                                         |

(注) 未発行株式数には、新株予約権の行使により発行される予定の普通株式595,000株が含まれており  
ます。

## (2) 【新株予約権等の状況】

| 区 分                                    | 中間会計期間末現在<br>(2021年9月30日)                                                                                                                                                                                                                                                  | 公表日の前月末現在<br>(2021年11月30日) |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 新株予約権の数(個)                             | 595,000                                                                                                                                                                                                                                                                    | 595,000                    |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数<br>(個)               | -                                                                                                                                                                                                                                                                          | 同左                         |
| 新株予約権の目的となる株式の種類                       | 普通株式(注) 1                                                                                                                                                                                                                                                                  | 同左                         |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株)                     | 595,000(注) 2                                                                                                                                                                                                                                                               | 595,000                    |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円)                      | 50                                                                                                                                                                                                                                                                         | 同左                         |
| 新株予約権の行使期間                             | 2020年7月8日から<br>2028年6月19日まで                                                                                                                                                                                                                                                | 同左                         |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 50円<br>資本組入額 25円                                                                                                                                                                                                                                                      | 同左                         |
| 新株予約権の行使の条件                            | ①新株予約権の割当てを受けた者は、権利行使時においても、当社または当社子会社の取締役、監査役または従業員その他これに準ずる地位にあることを要するものとする。ただし、新株予約権の割当てを受けた者が任期満了により退任または定年退職した場合、その他正当な理由がある場合にはこの限りではない。<br>②新株予約権の割当てを受けた者が死亡した場合はその権利を喪失する。<br>③新株予約権の質入れ、担保権の設定は認めないものとする。<br>④その他の条件については、当社と付与対象者の間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。 | 同左                         |
| 新株予約権の譲渡に関する事項                         | -                                                                                                                                                                                                                                                                          | 同左                         |
| 代用払込みに関する事項                            | -                                                                                                                                                                                                                                                                          | 同左                         |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項               | (注) 3                                                                                                                                                                                                                                                                      | 同左                         |

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式の数は、1株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転（以下「合併等」という。）を行う場合および株式の無償割当を行う場合、その他目的となる株式の数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で目的となる株式の数を調整することができる。ただし、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合（当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券または当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の転換または行使の場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済普通株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」と読み替える。さらに、割当日後、当社が合併等を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記の行使価額の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で行使価額を調整することができる。

3. 当社が合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換および株式移転（以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、合併等において定める契約書または計画書等に定めた場合には、それぞれの合併等において定める契約書または計画書等に記載された条件に基づき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「合併等対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、合併等対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。

（3）【M S C B等の行使状況等】

該当事項はありません。

（4）【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

（5）【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年 月 日                    | 発行済株式総数<br>増減数（株） | 発行済株式総数<br>残高（株） | 資本金増減額<br>（千円） | 資本金残高<br>（千円） | 資本準備金<br>増減額 | 資本準備金残高<br>（千円） |
|--------------------------|-------------------|------------------|----------------|---------------|--------------|-----------------|
| 2021年4月1日～<br>2021年9月30日 | -                 | 3,806,000        | -              | 907,300       | -            | 857,300         |

## (6) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

| 氏名又は名称                                                                       | 住所                                                                     | 所有株式数<br>(株) | 株式総数に<br>対する所有<br>株式数の割<br>合(%) |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------------|
| INDUSTRIAL TECHNOLOGY INVESTMENT CORPORATION (常任代理人 リーディング証券株式会社 代表取締役社長 陳歆) | 6F, 106 HO-PING EAST ROAD, SECTION 2 TAIPEI 106, TAIWAN, R. O. C       | 392,894      | 10.54                           |
| TNP 中小企業・ベンチャー企業成長応援投資事業有限責任組合                                               | 神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目6-1                                                    | 381,000      | 10.23                           |
| 株式会社オプトラン                                                                    | 埼玉県川越市大字竹野10番地1                                                        | 280,000      | 7.51                            |
| 合同会社 T C T S O 5                                                             | 東京都千代田区丸の内3丁目1番1号 東京共同会計事務所内                                           | 275,000      | 7.38                            |
| 柿崎尚志                                                                         | 栃木県河内郡上三川町                                                             | 270,000      | 7.25                            |
| 樋口俊郎                                                                         | 東京都文京区                                                                 | 258,000      | 6.92                            |
| TEL Venture Capital, Inc. (常任代理人 三田証券株式会社 取締役社長 三田邦博)                        | 2711 Centerville Road, Suite 400, Wilmington, NewCastle, Delaware, USA | 255,000      | 6.84                            |
| 傳 寶菜                                                                         | 栃木県河内郡上三川町                                                             | 217,000      | 5.82                            |
| トゥルーバグループホールディングス株式会社                                                        | 東京都千代田区大手町1丁目3番2号                                                      | 200,000      | 5.37                            |
| 坂井正明                                                                         | 大阪府大阪市天王寺区                                                             | 180,000      | 4.83                            |
| 計                                                                            | -                                                                      | 2,708,894    | 72.70                           |

(注) 株式総数に対する所有株式数の割合は、新株予約権(595,000株)及び自己株式(80,000株)を除く株式総数に対する割合であります。なお、小数点以下第3位を四捨五入しております。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2021年9月30日現在

| 区分                 | 株式数(株)            | 議決権の数(個) | 内容                                             |
|--------------------|-------------------|----------|------------------------------------------------|
| 無議決権株式             | -                 | -        | -                                              |
| 議決権制限株式<br>(自己株式等) | -                 | -        | -                                              |
| 議決権制限株式(その他)       | -                 | -        | -                                              |
| 完全議決権株式<br>(自己株式等) | 普通株式<br>80,000    | -        | 自己株式                                           |
| 完全議決権株式(その他)       | 普通株式<br>3,725,900 | 37,259   | 権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。 |
| 単元未満株式             | 普通株式<br>100       | -        | -                                              |
| 発行済株式総数            | 3,806,000         | -        | -                                              |
| 総株主の議決権            | -                 | 37,259   | -                                              |

②【自己株式等】

2021年9月30日現在

| 所有者の氏名<br>又は名称 | 所有者の住所                                 | 自己名義所有<br>株式数（株） | 他人名義所有<br>株式数（株） | 所有株式数の<br>合計（株） | 発行済株式総数<br>に対する所有<br>株式数の割合<br>（%） |
|----------------|----------------------------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------------------------|
| 筑波精工<br>株式会社   | 栃木県河内郡<br>上三川町大字<br>上蒲生字願成寺<br>2168-10 | 80,000           | -                | 80,000          | 2.1                                |
| 計              | -                                      | 80,000           | -                | 80,000          | 2.1                                |

(8) 【ストック・オプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を導入しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。当該制度の内容は、以下のとおりであります。

第3回新株予約権（2018年6月20日定時株主総会決議及び2018年7月6日臨時取締役会決議）

| 決議年月日                    | 2018年7月6日                |
|--------------------------|--------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数             | 当社取締役6名、当社従業員4名、その他1名    |
| 新株予約権の目的となる株式の種類         | 「（2）新株予約権等の状況」に記載しております。 |
| 株式の数                     | 同上                       |
| 新株予約権の行使時の払込金額           | 同上                       |
| 新株予約権の行使期間               | 同上                       |
| 新株予約権の行使の条件              | 同上                       |
| 新株予約権の譲渡に関する事項           | 同上                       |
| 代用払込みに関する事項              | 同上                       |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | 同上                       |

（注）1. 付与対象者の区分及び人数は、2020年6月29日開催の定時株主総会決議により小谷田博章氏が取締役就任し、当社取締役6名、当社従業員4名となっております。

2【株価の推移】

| 月 別   | 2021年4月 | 2021年5月 | 2021年6月 | 2021年7月 | 2021年8月 | 2021年9月 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 最高（円） | 1,250   | 1,250   | 1,250   | 1,250   | 1,250   | 1,250   |
| 最低（円） | 1,250   | 1,250   | 1,250   | 1,250   | 1,249   | 1,250   |

（注）1. 最高・最低株価は東京証券取引所 TOKYO PRO Market におけるものであります。

2. 2021年4月から9月までの売買取引は、筑波精工株式会社従業員持株会及び筑波精工株式会社役員持株会の買い付けによるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の発行者情報の公表日後、本中間発行者情報の公表日までの役員の異動はありません。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

中間会計期間につき省略しております。

## 第6【経理の状況】

### 1. 中間財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、株式会社東京証券取引所の「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例の施行規則」第116条第3項で認められた会計基準のうち、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しております。

### 2. 監査証明について

当社は、株式会社東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例」第128条第3項の規定に基づき、中間会計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の中間財務諸表について、あかり監査法人により中間監査を受けております。

### 3. 中間連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表を作成しておりません。

1 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

|            | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当中間会計期間<br>(2021年9月30日) |
|------------|-----------------------|-------------------------|
| 資産の部       |                       |                         |
| 流動資産       |                       |                         |
| 現金及び預金     | 551,157               | 502,228                 |
| 受取手形       | 1,375                 | 3,025                   |
| 電子記録債権     | 5,531                 | 7,919                   |
| 売掛金        | 18,947                | 32,000                  |
| 商品及び製品     | 4,630                 | 4,317                   |
| 仕掛品        | 2,837                 | 5,609                   |
| 原材料        | 4,593                 | 4,530                   |
| 貯蔵品        | 332                   | 274                     |
| 前払費用       | 1,953                 | 1,984                   |
| 未収入金       | 8                     | -                       |
| 未収収益       | 88                    | 671                     |
| 未収還付消費税等   | 6,405                 | -                       |
| 流動資産合計     | 597,861               | 562,562                 |
| 固定資産       |                       |                         |
| 投資その他の資産   |                       |                         |
| 差入保証金      | 35,130                | 34,827                  |
| 投資その他の資産合計 | 35,130                | 34,827                  |
| 固定資産合計     | 35,130                | 34,827                  |
| 資産合計       | 632,991               | 597,390                 |

(単位：千円)

|          | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当中間会計期間<br>(2021年9月30日) |
|----------|-----------------------|-------------------------|
| 負債の部     |                       |                         |
| 流動負債     |                       |                         |
| 支払手形     | 8,026                 | 7,878                   |
| 電子記録債務   | 9,735                 | 13,047                  |
| 買掛金      | 4,394                 | 6,313                   |
| 未払金      | 4,632                 | 7,104                   |
| 未払費用     | 4,018                 | 4,329                   |
| 未払法人税等   | 3,569                 | 4,946                   |
| 未払消費税等   | -                     | 75                      |
| 預り金      | 775                   | 827                     |
| 前受金      | 1,313                 | 4,749                   |
| 賞与引当金    | 3,561                 | 3,908                   |
| 製品保証引当金  | 1,411                 | 1,620                   |
| リース債務    | 7,251                 | 7,379                   |
| 流動負債合計   | 48,689                | 62,181                  |
| 固定負債     |                       |                         |
| 長期借入金    | 120,000               | 120,000                 |
| リース債務    | 33,422                | 29,700                  |
| 固定負債合計   | 153,422               | 149,700                 |
| 負債合計     | 202,111               | 211,881                 |
| 純資産の部    |                       |                         |
| 株主資本     |                       |                         |
| 資本金      | 907,300               | 907,300                 |
| 資本剰余金    |                       |                         |
| 資本準備金    | 857,300               | 857,300                 |
| 資本剰余金合計  | 857,300               | 857,300                 |
| 利益剰余金    |                       |                         |
| 利益準備金    | 2,500                 | 2,500                   |
| その他利益剰余金 |                       |                         |
| 別途積立金    | 13,000                | 13,000                  |
| 繰越利益剰余金  | △1,345,220            | △1,390,590              |
| 利益剰余金合計  | △1,329,720            | △1,375,090              |
| 自己株式     | △4,000                | △4,000                  |
| 株主資本合計   | 430,879               | 385,509                 |
| 純資産合計    | 430,879               | 385,509                 |
| 負債純資産合計  | 632,991               | 597,390                 |

②【中間損益計算書】

(単位：千円)

|              | 前中間会計期間            |        | 当中間会計期間            |        |
|--------------|--------------------|--------|--------------------|--------|
|              | (自 2020 年 4 月 1 日  |        | (自 2021 年 4 月 1 日  |        |
|              | 至 2020 年 9 月 30 日) |        | 至 2021 年 9 月 30 日) |        |
| 売上高          | 91,998             |        | 104,326            |        |
| 売上原価         |                    |        |                    |        |
| 製品期首棚卸高      | 3,200              |        | 4,630              |        |
| 当期製品製造原価     | 62,380             |        | 63,334             |        |
| 当期商品仕入高      | 289                |        | 530                |        |
| 合計           | 65,870             |        | 68,495             |        |
| 棚卸資産評価損      | 342                |        | 2,028              |        |
| 他勘定振替高       | 309                |        | 4,489              |        |
| 製品期末棚卸高      | 3,789              |        | 6,346              |        |
| 売上原価         | 62,113             |        | 59,687             |        |
| 売上総利益        | 29,884             |        | 44,638             |        |
| 販売費及び一般管理費   | ※1※2               | 85,278 | ※1※2               | 82,101 |
| 営業損失(△)      | △55,393            |        | △37,463            |        |
| 営業外収益        |                    |        |                    |        |
| 受取利息         | 7                  |        | 4                  |        |
| 為替差益         | -                  |        | 249                |        |
| 補助金収入        | 5,917              |        | -                  |        |
| 雑収入          | 116                |        | 716                |        |
| 営業外収益合計      | 6,041              |        | 970                |        |
| 営業外費用        |                    |        |                    |        |
| 支払利息         | 1,217              |        | 1,556              |        |
| 為替差損         | 1,045              |        | -                  |        |
| 営業外費用合計      | 2,263              |        | 1,556              |        |
| 経常損失(△)      | △51,614            |        | △38,048            |        |
| 特別損失         |                    |        |                    |        |
| 減損損失         | ※3                 | 20,410 | ※3                 | 6,786  |
| 特別損失合計       | 20,410             |        | 6,786              |        |
| 税引前中間純損失(△)  | △72,025            |        | △44,835            |        |
| 法人税、住民税及び事業税 | 536                |        | 535                |        |
| 法人税等合計       | 536                |        | 535                |        |
| 中間純損失(△)     | △72,561            |        | △45,370            |        |

③【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自 2020 年 4 月 1 日 至 2020 年 9 月 30 日）

（単位：千円）

|           | 株主資本     |           |                 |           |           |               |               |          |            | 純資産<br>合計 |
|-----------|----------|-----------|-----------------|-----------|-----------|---------------|---------------|----------|------------|-----------|
|           | 資本金      | 資本剰余金     |                 | 利益剰余金     |           |               |               | 自己株式     | 株主資本<br>合計 |           |
|           |          | 資本準備<br>金 | 資本剰余<br>金<br>合計 | 利益<br>準備金 | その他利益剰余金  |               | 利益剰余金<br>合計   |          |            |           |
|           |          |           |                 |           | 別途<br>積立金 | 繰越利益<br>剰余金   |               |          |            |           |
| 当期首残高     | 907, 300 | 857, 300  | 857, 300        | 2, 500    | 13, 000   | △ 1, 236, 250 | △ 1, 220, 750 | △ 4, 000 | 539, 849   | 539, 849  |
| 当中間期変動額   |          |           |                 |           |           |               |               |          |            |           |
| 中間純損失（△）  |          |           |                 |           |           | △ 72, 561     | △ 72, 561     |          | △ 72, 561  | △ 72, 561 |
| 当中間期変動額合計 | -        | -         | -               | -         | -         | △ 72, 561     | △ 72, 561     | -        | △ 72, 561  | △ 72, 561 |
| 当中間期末残高   | 907, 300 | 857, 300  | 857, 300        | 2, 500    | 13, 000   | △ 1, 308, 812 | △ 1, 293, 312 | △ 4, 000 | 467, 287   | 467, 287  |

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

（単位：千円）

(単位:千円)

|          | 株主資本     |          |             |           |           |              |                 |         |            | 純資産<br>合計 |
|----------|----------|----------|-------------|-----------|-----------|--------------|-----------------|---------|------------|-----------|
|          | 資本金      | 資本剰余金    |             | 利益剰余金     |           |              |                 | 自己株式    | 株主資本<br>合計 |           |
|          |          | 資本準備金    | 資本剰余金<br>合計 | 利益<br>準備金 | その他利益剰余金  |              | 利益剰余<br>金<br>合計 |         |            |           |
|          |          |          |             |           | 別途<br>積立金 | 繰越利益<br>剰余金  |                 |         |            |           |
| 当期首残高    | 907, 300 | 857, 300 | 857, 300    | 2, 500    | 13, 000   | △1, 345, 220 | △1, 329, 720    | △4, 000 | 430, 879   | 430, 879  |
| 当中間期変動額  |          |          |             |           |           |              |                 |         |            |           |
| 中間純損失（△） |          |          |             |           |           | △45, 370     | △45, 370        |         | △45, 370   | △45, 370  |
| 当中間変動額合計 | -        | -        | -           | -         | -         | △45, 370     | △45, 370        | -       | △45, 370   | △45, 370  |
| 当中間期末残高  | 907, 300 | 857, 300 | 857, 300    | 2, 500    | 13, 000   | △1, 390, 590 | △1, 375, 090    | △4, 000 | 385, 509   | 385, 509  |

## ④【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

|                      | 前中間会計期間<br>(自 2020 年 4 月 1 日<br>至 2020 年 9 月 30 日) | 当中間会計期間<br>(自 2021 年 4 月 1 日<br>至 2021 年 9 月 30 日) |
|----------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     |                                                    |                                                    |
| 税引前中間純損失 (△)         | △72,025                                            | △44,835                                            |
| 減損損失                 | 20,410                                             | 6,786                                              |
| 減価償却費                | 357                                                | 410                                                |
| 為替差損益 (△は益)          | 724                                                | 357                                                |
| 差入保証金償却              | 294                                                | 302                                                |
| 補助金収入                | △5,917                                             | -                                                  |
| 受取利息                 | △7                                                 | △4                                                 |
| 支払利息                 | 1,217                                              | 1,556                                              |
| 製品保証引当金の増減額 (△は減少)   | 358                                                | 208                                                |
| 売上債権の増減額 (△は増加)      | 11,679                                             | △14,140                                            |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加)      | 3,779                                              | △1,466                                             |
| 仕入債務の増減額 (△は減少)      | △7,568                                             | 5,082                                              |
| 未収還付消費税等の増減額 (△は増加)  | 14,804                                             | 6,405                                              |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少)    | -                                                  | 75                                                 |
| 未払金の増減額 (△は減少)       | 1,199                                              | 2,472                                              |
| その他の資産の増減額 (△は増加)    | 5,697                                              | △606                                               |
| その他の負債の増減額 (△は減少)    | △1,413                                             | 1,432                                              |
| 小計                   | △26,408                                            | △35,961                                            |
| 利息の受取額               | 9                                                  | 4                                                  |
| 補助金の受取額              | 5,917                                              | -                                                  |
| 利息の支払額               | △1,219                                             | △1,572                                             |
| 法人税等の支払額             | △1,069                                             | △1,070                                             |
| 法人税等の還付額             | -                                                  | 1,691                                              |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     | △22,769                                            | △36,908                                            |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     |                                                    |                                                    |
| 差入保証金の差入による支出        | △282                                               | -                                                  |
| 有形固定資産の取得による支出       | △9,864                                             | △7,604                                             |
| 無形固定資産の取得による支出       | △543                                               | △464                                               |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     | △10,691                                            | △8,068                                             |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     |                                                    |                                                    |
| 短期借入れによる収入           | 1,000                                              | -                                                  |
| 短期借入金の返済による支出        | △1,000                                             | -                                                  |
| 長期借入れによる収入           | 30,000                                             | -                                                  |
| リース債務の返済による支出        | △3,469                                             | △3,593                                             |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     | 26,530                                             | △3,593                                             |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額     | △724                                               | △357                                               |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △7,655                                             | △48,928                                            |
| 現金及び現金同等物の期首残高       | 480,147                                            | 491,157                                            |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高     | ※1 472,492                                         | ※1 442,228                                         |

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 商品及び製品 個別法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。
- (2) 仕掛品 個別法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。
- (3) 原材料 移動平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。
- (4) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（2007年3月以前に取得したものは旧定率法）を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備： 15年

機械及び装置： 8年

工具、器具及び備品： 4～5年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

また、製造販売権については、見積耐用年数（5年）に基づく定額法を採用しております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を残価保証相当額とする定額法を採用しております。

#### 3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益としております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

吸着システム事業において、主にステージ及びサポーターの製造及び販売を行っております。このような商品及び製品の販売については、国内販売においては顧客に商品及び製品それぞれを引き渡した時点で収益を認識しており、輸出販売においては、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時点で収益を認識しております。

#### 5. 引当金の計上基準

##### (1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に充てるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

##### (2) 製品保証引当金

販売済製品に係る一定期間の無償補修費の支出に備えるため、過去の実績率に基づき計上しております。

#### 6. 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### (会計方針の変更)

##### (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当中間会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当社は、従来は国内販売においては主に出荷時に収益を認識しておりましたが、顧客に商品及び製品をそれぞれ引き渡した時に収益を認識することとしております。また、輸出販売においては主に通関日に収益を認識しておりましたが、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、当中間会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当中間会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当中間会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき会計処理を行い、その累積的影響額を当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金に加減しております。

この結果、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金に与える影響はありません。また、当中間財務諸表に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

##### (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、中間財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(令和2年3月6日内閣府令第9号)附則第3条第2項により、経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前事業年度に係るものについては記載しておりません。

#### (追加情報)

##### (新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前事業年度の発行者情報の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響の収束時期等の仮定は、「2022年3月期末までは当該影響が継続するものの、その後は徐々に回復が進んでいくもの」と仮定するものとしておりましたが、ワクチンの接種率の高い先進国における致死率の急速な低下はみられるものの、先進国以外の諸外国へのワクチンの普及に想定以上の時間が掛かっていることなどを考慮して、「2023年3月期下半期以降はコロナウイルスワクチン接種が世界的に拡大されることで感染拡大傾向が薄れ、移動制限の緩和、マスク着用の制限緩和など、企業活動を制限する各種規制の緩和が進む」ことに想定を変更しております。

この為、2023年3月期上半期(2022年4月～2022年9月)には2022年3月期上半期(2021年4月～2021年9月)と同等の影響が残るものの、2023年3月期下半期(2022年10月～2023年3月)には、若干の移動制限などは残されながらも、世界的な経済活動の改善が進むことで当該下半期の末日までにはパンデミック前に近い状態に復帰するとの仮定に変更し、固定資産の減損判定、繰延税金資産の回収可能性及び継続企業の前提に係る将来キャッシュ・フローの見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期及び経営環境への影響は不透明であり、かつその影響について不確定要素が多いことから、将来の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(中間貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

|                | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当中間会計期間<br>(2021年9月30日) |
|----------------|-----------------------|-------------------------|
| 有形固定資産の減価償却累計額 | 254,745 千円            | 261,478 千円              |

※ 減価償却累計額には減損損失累計額を含んでおります。

(中間損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

|            | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日) | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日) |
|------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 役員報酬       | 21,108千円                                 | 21,108千円                                 |
| 給与手当       | 10,696                                   | 10,664                                   |
| 賞与引当金繰入額   | 1,080                                    | 1,429                                    |
| 支払報酬       | 15,559                                   | 14,780                                   |
| 減価償却費      | 281                                      | 268                                      |
| 製品保証引当金繰入額 | 358                                      | 208                                      |

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

|       | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日) | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日) |
|-------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 研究開発費 | 4,655千円                                  | 1,832千円                                  |

※3 減損損失の内容については次のとおりであります。

前中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(1) 当中間会計期間において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

| 場所         | 用途         | 種類        |
|------------|------------|-----------|
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産・全社資産 | 工具、器具及び備品 |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産      | 建設仮勘定     |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産      | ソフトウェア    |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産      | 長期前払費用    |

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当初想定していた収益を見込めなくなったため、当該事業に係る資産グループについて減損損失を認識しております。

(3) 減損損失の金額

|           |           |
|-----------|-----------|
| 工具、器具及び備品 | 2,906 千円  |
| 建設仮勘定     | 16,899 千円 |
| ソフトウェア    | 534 千円    |
| 長期前払費用    | 70 千円     |
| 計         | 20,410 千円 |

(4) 資産のグルーピングの方法

当社は、静電界を用いた吸着システム事業のみの単一セグメントとしております。事業資産は全体で一つの資産グループとしておりますが、除去予定又は遊休状態にある資産については、個別に独立した単位としてグルーピングを行っております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを8.6%で割り引いて算定しております。

当中間会計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(1) 当中間会計期間において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

| 場所         | 用途    | 種類        |
|------------|-------|-----------|
| 台湾新竹市      | 事業用資産 | 建物附属設備    |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産 | 機械装置      |
| 台湾新竹市      | 事業用資産 | 機械装置      |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産 | 工具、器具及び備品 |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産 | 建設仮勘定     |
| 栃木県河内郡上三川町 | 事業用資産 | ソフトウェア    |

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当初想定していた収益を見込めなくなったため、当該事業に係る資産グループについて減損損失を認識しております。

(3) 減損損失の金額

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| 建物附属設備    | 2,511 | 千円 |
| 機械装置      | 2,018 | 千円 |
| 工具、器具及び備品 | 1,580 | 千円 |
| 建設仮勘定     | 219   | 千円 |
| ソフトウェア    | 456   | 千円 |
| 計         | 6,786 | 千円 |

(4) 資産のグルーピングの方法

当社は、静電界を用いた吸着システム事業のみの単一セグメントとしております。事業資産は全体で一つの資産グループとしておりますが、除去予定又は遊休状態にある資産については、個別に独立した単位としてグルーピングを行っております。

(5) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能価額を零として評価しております。

4 減価償却実施額

|        | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日) | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日) |
|--------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 有形固定資産 | 348千円                                    | 402千円                                    |
| 無形固定資産 | 9                                        | 7                                        |
|        | 357                                      | 410                                      |

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

|       | 当事業年度期首<br>株式数（株） | 当中間会計期間<br>増加株式数（株） | 当中間会計期間<br>減少株式数（株） | 当中間会計期間末<br>株式数（株） |
|-------|-------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 発行済株式 |                   |                     |                     |                    |
| 普通株式  | 3,806,000         | -                   | -                   | 3,806,000          |
| 合計    | 3,806,000         | -                   | -                   | 3,806,000          |

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首<br>株式数 (株) | 当中間会計期間<br>増加株式数 (株) | 当中間会計期間<br>減少株式数 (株) | 当中間会計期間末<br>株式数 (株) |
|-------|--------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 普通株式  | 80,000             | -                    | -                    | 80,000              |

3. 新株予約権に関する事項  
該当事項はありません。

4. 配当に関する事項  
該当事項はありません。

当中間会計期間 (自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

|       | 当事業年度期首<br>株式数 (株) | 当中間会計期間<br>増加株式数 (株) | 当中間会計期間<br>減少株式数 (株) | 当中間会計期間末<br>株式数 (株) |
|-------|--------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 |                    |                      |                      |                     |
| 普通株式  | 3,806,000          | -                    | -                    | 3,806,000           |
| 合計    | 3,806,000          | -                    | -                    | 3,806,000           |

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首<br>株式数 (株) | 当中間会計期間<br>増加株式数 (株) | 当中間会計期間<br>減少株式数 (株) | 当中間会計期間末<br>株式数 (株) |
|-------|--------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 普通株式  | 80,000             | -                    | -                    | 80,000              |

3. 新株予約権に関する事項  
該当事項はありません。

4. 配当に関する事項  
該当事項はありません。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

|                    | 前中間会計期間<br>(自 2020 年 4 月 1 日<br>至 2020 年 9 月 30 日) | 当中間会計期間<br>(自 2021 年 4 月 1 日<br>至 2021 年 9 月 30 日) |
|--------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 現金及び預金             | 532,492 千円                                         | 502,228 千円                                         |
| 預入期間が 3 か月を超える定期預金 | △60,000                                            | △60,000                                            |
| 現金及び現金同等物          | 472,492                                            | 442,228                                            |

(リース取引関係)

前中間会計期間 (自 2020 年 4 月 1 日 至 2020 年 9 月 30 日)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

熱プレス機及びチラー (機械装置) であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

1. ファイナンス・リース取引（借主側）

所有権移転外ファイナンス・リース取引

（1）リース資産の内容

有形固定資産

熱プレス機及びチラー（機械装置）であります。

（2）リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

（金融商品関係）

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額（貸借対照表計上額）、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2021 年 3 月 31 日）

|                        | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|------------------------|------------------|---------|---------|
| (1) 差入保証金              | 35,130           | 33,513  | △1,617  |
| 資産計                    | 35,130           | 33,513  | △1,617  |
| (1) リース債務（1 年内返済予定を含む） | 40,673           | 40,560  | △113    |
| (2) 長期借入金              | 120,000          | 120,454 | 454     |
| 負債計                    | 160,673          | 161,015 | 341     |

（注）1. 現金は注記を省略しており、預金、受取手形、電子記録債権、売掛金、未収還付消費税等、支払手形、電子記録債務、買掛金、未払金、未払費用、未払法人税等及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

当中間会計期間（2021 年 9 月 30 日）

|                        | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|------------------------|------------------|---------|---------|
| (1) 差入保証金              | 34,827           | 33,733  | △1,094  |
| 資産計                    | 34,827           | 33,733  | △1,094  |
| (1) リース債務（1 年内返済予定を含む） | 37,079           | 37,000  | △79     |
| (2) 長期借入金              | 120,000          | 120,655 | 655     |
| 負債計                    | 157,079          | 157,655 | 575     |

（注）1. 現金は注記を省略しており、預金、受取手形、電子記録債権、売掛金、支払手形、電子記録債務、買掛金、未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品  
該当事項ありません。

(2) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

|                   | 時価（千円） |         |      |         |
|-------------------|--------|---------|------|---------|
|                   | レベル1   | レベル2    | レベル3 | 合計      |
| 差入保証金             | —      | 33,733  | —    | 33,733  |
| 資産計               | —      | 33,733  | —    | 33,733  |
| リース債務（1年内返済予定を含む） | —      | 37,000  | —    | 37,000  |
| 長期借入金             | —      | 120,655 | —    | 120,655 |
| 負債計               | —      | 157,655 | —    | 157,655 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

差入保証金

これらの時価は、その将来キャッシュ・フローと国債利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金及びリース債務

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

前事業年度（2021年3月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（2021年9月30日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度（2021年3月31日）

該当事項はありません。

当中間会計期間（2021年9月30日）

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

前中間会計期間（自 2020 年 4 月 1 日 至 2020 年 9 月 30 日）

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名  
該当事項はありません。
2. 中間会計期間に付与したストック・オプションの内容  
該当事項はありません。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名  
該当事項はありません。
2. 中間会計期間に付与したストック・オプションの内容  
該当事項はありません。

(持分法損益等)

前事業年度（自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日）

当社は関連会社を有していないため、該当事項はありません。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

当社は関連会社を有していないため、該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度（自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日）

当社は、本社等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

当社は、本社等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度（自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日）

重要な賃貸等はありません。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

重要な賃貸等はありません。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約について、以下の 5 ステップアプローチに基づき、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価の額で収益を認識しております。

ステップ 1：顧客との契約を識別する

ステップ 2：契約における履行義務を識別する

ステップ 3：取引価格を算定する

ステップ 4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ 5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する

当社では、静電界を用いた吸着システム事業において、主として日本、台湾及び中国の顧客に対し、静電チャック関連商品及び製品を販売しております。

履行義務の充足時点については、国内販売においては商品及び製品をそれぞれ顧客に引き渡した時点としており、輸出販売においてはインコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時点としておりますが、これは顧客から取引対価の支払いを受ける権利を得ていると判

断できるためであります。

静電チャック関連製品の販売契約において、引渡し後1年以内に生じた製品の欠陥による故障に対して無償で修理又は交換を行う製品保証義務を有しております。当該保証義務は、製品が顧客との契約に定められた仕様に従って意図したとおりに機能するという保証を顧客に提供するものであるため、製品保証引当金として認識しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間（自 2020 年 4 月 1 日 至 2020 年 9 月 30 日）

当社の事業セグメントは、静電界を用いた吸着システム事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

当社の事業セグメントは、静電界を用いた吸着システム事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間（自 2020 年 4 月 1 日 至 2020 年 9 月 30 日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当中間会計期間の製品別販売実績は次のとおりであります。

(単位：千円)

|           | サポーター | ステージ   | その他    | 合計     |
|-----------|-------|--------|--------|--------|
| 外部顧客への売上高 | 8,450 | 61,304 | 22,243 | 91,998 |

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

| 日本     | 台湾     | 中国     | 合計     |
|--------|--------|--------|--------|
| 30,673 | 48,672 | 12,652 | 91,998 |

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名     | 売上高    |
|---------------|--------|
| 盟立自動化股份有限公司   | 48,252 |
| 深圳市瑞尔泰思科技有限公司 | 12,652 |

当中間会計期間（自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当中間会計期間の製品別販売実績は次のとおりであります。

(単位：千円)

|           | サポーター  | ステージ   | その他    | 合計      |
|-----------|--------|--------|--------|---------|
| 外部顧客への売上高 | 25,748 | 28,184 | 50,394 | 104,326 |

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

| 日本     | 台湾    | 中国     | 合計      |
|--------|-------|--------|---------|
| 68,375 | 8,167 | 27,784 | 104,326 |

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名     | 売上高    |
|---------------|--------|
| 深圳市瑞尔泰思科技有限公司 | 27,784 |
| イーグローバレッジ株式会社 | 19,688 |

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額は、以下のとおりであります。

|           | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当中間会計期間<br>(2021年9月30日) |
|-----------|-----------------------|-------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 115円64銭               | 103円46銭                 |

1株当たり中間純損失は、以下のとおりであります。

|               | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日) | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日) |
|---------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1株当たり中間純損失(△) | △19円47銭                                  | △12円18銭                                  |

(注1) 前中間会計期間及び当中間会計期間の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

(注2) 1株当たり中間純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|                                                  | 前中間会計期間<br>(自 2020年4月1日<br>至 2020年9月30日)                                                                 | 当中間会計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年9月30日)                                                                 |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中間純損失(△) (千円)                                    | △72,561                                                                                                  | △45,370                                                                                                  |
| 普通株主に帰属しない金額(千円)                                 | -                                                                                                        | -                                                                                                        |
| 普通株式に係る中間純損失(△) (千円)                             | △72,561                                                                                                  | △45,370                                                                                                  |
| 普通株式の期中平均株式数(株)                                  | 3,726,000                                                                                                | 3,726,000                                                                                                |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要 | 新株予約権1種類(新株予約権の数600,000個(普通株式600,000株))<br>なお、新株予約権の概要は、「第5【発行者の状況】1【株式等の状況】(2)【新株予約権等の状況】」に記載のとおりであります。 | 新株予約権1種類(新株予約権の数595,000個(普通株式595,000株))<br>なお、新株予約権の概要は、「第5【発行者の状況】1【株式等の状況】(2)【新株予約権等の状況】」に記載のとおりであります。 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第7【外国為替相場の推移】

該当事項はありません。

## 第二部【特別情報】

### 第1【外部専門家の同意】

該当事項はありません。

# 独立監査人の中間監査報告書

2021年12月27日

筑波精工株式会社

取締役会 御中

あかり監査法人

東京都港区

指 定 社 員

業務執行社員

公認会計士

狐塚利光



指 定 社 員

業務執行社員

公認会計士

林 成治



## 中間監査意見

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の特定上場有価証券に関する有価証券上場規程の特例第128条第3項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている筑波精工株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第37期事業年度の中間会計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、筑波精工株式会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上